

ず～むあっぴ☆

オホーツク

メルヘンの丘 大空町

2018年

9月号

農林水産省  
北海道農政事務所  
北見地域拠点

## 農業の働き方改革！ 地域の酪農を支えるプロ集団！

(株)FReeee  
(北見市留辺薬町)

### ☆酪農ヘルパー業を起業

(株)FReeeeは、2014年に北見市留辺薬町で起業された、酪農ヘルパーの派遣を中心に、農作業の受託業務を行う会社です。このような組織は農協等が運営しているのが通常ですが、20人程の従業員を雇用し、70軒程の農家で様々な農作業を行っています。

社長の岡田祐一さんによると、従業員は農業未経験の若い人が多く、他業種から転職してきた方が大半で、一人ひとりからどのような作業に従事したいかを聞き取った上で分担をしているので、辞めていく方はいないそうです。

酪農家からの依頼は、緊急に舞い込むことが多く、日によって仕事量が大きく変わってしまうため、安定的な経営を目指し、牛舎内の仕事だけではなく、牧草刈り取りや地域で盛んな畑作の作業も請け負い、社員に様々な農作業を経験させています。

### ☆農家のライフスタイルを変える

岡田社長が自負しているのは、自社と契約している酪農家は、全道で最も休暇を取得しているのではということ。時代は変わり、酪農家もサラリーマン並みに、旅行を楽しんだり、家族との時間を過ごすライフスタイルの確立を早急に整えないといけない。そうしないと、後を継ぐものは減る一方になってしまうと警鐘を鳴らします。



一方、酪農家も考え方が変化しているといえます。酪農家に休みが無いのは当たり前前という親の姿を見て育った世代も、未来を見据えた時、このままでは人が集まらず、農業が衰退し、地域全体も寂れてしまうと考える方が増えているそうです。

### ☆人と人のつながりが大事

こうした酪農家の変化は、酪農ヘルパーとの関係向上にもなっていると社長はいいます。よく利用してくれる酪農家は、ヘルパーが引き継ぎやすいように協力もしてくれるそうです。

一頭ずつ状況が違う牛を把握するのは、酪農家の協力なしには成り立ちません。「仕事は牛の世話だけど、酪農家とコミュニケーションをとり、信頼関係を築くのが最も大事な仕事だよ」という社長の言葉に、助ける側、助けられる側双方の歩み寄り・協力が「農業＝つらい仕事」からの脱却に必要なだと感じました。



【女性も活躍中！】





# 収穫の夏! 地産地消イベントに参加しました



## がぶりかるちゃー 「家族いも掘り体験会」 8/11(土)



8月11日、北見市やテクノ北見21等 北見地域拠点を含む官民11組織で構成される「がぶりかるちゃー事業実施委員会」は、農村と都市の交流を通してふるさとの活性化を図ることを目的に「家族いも掘り体験会」を開催しました。

参加者は、小学生や幼児の親子が大半で、親子三世代の参加や夫婦の参加も多く、約600名が収穫を楽しみました。

昭和63年から通算して31回目となる今回は、2日前からの雨で畑はぬかるんでいましたが、毎年来ている人も多く、慣れた手つきでいもを掘っていました。

また、参加者には豚汁が振る舞われたり、エゾシカ肉のジングスカンの試食、地場産小麦を使用した手作りパンの販売、野菜直売会、お米や白花豆などの地域の特産物が当たる抽選会なども開催されました。

参加者は、芝生の上などにレジャーシートを広げ、家族で楽しい一日を過ごしていました。



### ★出展予定のイベント紹介★

農林水産業、農林水産行政に対する理解を深めていただけるよう、様々なイベントに出展しています。

**\* 9月1日(土) 北見地産地消フェスタ2018**

場所: 駅南多目的広場(北見)  
主な出展内容: パネル展示、模擬搾乳体験

**\* 10月7日(日)、8日(月祝) 収穫祭文化学術展**

場所: 東京農業大学オホーツクキャンパス(網走市)  
主な出展内容: パネル展示

**\* 9月29日(土) 食べる・たいせつフェスティバル2018in北見**

場所: サンライフ北見(北見市)  
主な出展内容: もみすり・精米体験

**\* 10月13日(土) オホーツク農業祭2018**

場所: サンドーム北見(北見市)  
主な出展内容: 模擬搾乳体験

### 編集後記

30℃超えの毎日が続いたと思ったら、もう肌寒い毎日。平成最後の夏も終わってしまったのでしょうか(´・ω・`) もう1回くらいぴーかん天気にならないかな。(やっぱり外遊びしたい28歳)